

INFORMATION

No.2022.12
2022年9月

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび、新たな検査項目の受託開始について、下記の通りご案内いたします。
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。

謹白

記

■ 実施日 2022年12月1日(木) ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

検査項目 一覧掲載頁	項目 コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)
—	3315	アルドステロン/ レニン活性比 4D120-0000-022- 919	冷却遠心 血漿 1.2	③ EDTA- 2Na入り	凍結 (14日)	4~6	125 + 100 ※5	アルドステロ ン：CLEIA レニン活性 ：EIA	裏面参照

※5：生化学的検査(Ⅱ)判断料

- ・基準値は、日本内分泌学会の「原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」によるカットオフ値です。

今回の新規項目受託開始に伴い、下記項目の受託を中止させていただきます。

検査項目 一覧掲載頁	項目コード	項目名	受託中止日
—	3564	アルドステロン/レニン活性比	2022年11月30日(水) ご依頼分をもって受託中止

※今回中止となる項目コード3564 アルドステロン/レニン活性比は、日本高血圧学会の「高血圧治療ガイドライン2019」に準拠したカットオフ値(アルドステロン/レニン活性比 200以下)の項目です。



一般社団法人

福岡市医師会臨床検査センター

〒814-0001 福岡市早良区百道浜1丁目6番9号 TEL(092)852-1506 FAX(092)852-1511

● アルドステロン/レニン活性比

「原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」の演算法・カットオフ値に対応した項目です。

二次性高血圧の主な原因とされる原発性アルドステロン症（primary aldosteronism：PA）は、高血圧において約5%を占めることが報告されています。

日本内分泌学会「原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」ではPAのスクリーニング検査としてCLEIA法による血漿アルドステロン濃度（PAC）および、血漿アルドステロン濃度（PAC）と血漿レニン活性（PRA）または活性型レニン濃度（ARC）との比（ARR）が指標とされています。

▼検査要項

検査項目名	アルドステロン/レニン活性比
項目コード	親：3315 アルドステロン/レニン活性比 子：3316 アルドステロン 子：3317 レニン活性 子：3318 アルドステロン/レニン活性比
検体量	冷却遠心 血漿 1.2 mL
容器	③EDTA-2Na入り→⑧⑧ ポリスピッツ
保存方法	必ず凍結保存してください
所要日数	4～6日
検査方法	アルドステロン：CLEIA、レニン活性：EIA
基準値	下記参照
報告範囲（単位）	アルドステロン：4.0未満、4.0～99900000（pg/mL） レニン活性：0.2未満、0.2～99900000（ng/mL/hr） アルドステロン/レニン活性比：～99900000
桁数	アルドステロン：有効3桁、整数8桁、小数1桁 レニン活性：有効3桁、整数8桁、小数1桁 アルドステロン/レニン活性比：有効3桁、整数8桁、小数0桁
検査実施料	125点+100点 （「D008」内分科学的検査「14」+「D008」内分科学的検査「7」）
判断料	144点（生化学的検査（Ⅱ）判断料）
備考	基準値は、日本内分泌学会の「原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」によるカットオフ値です。

3315 アルドステロン/レニン活性比 の留意事項

- 採血条件は早朝空腹時の安静臥位後が望ましいが、スクリーニングでは随時座位で行って良い、とされています。

3315 アルドステロン/レニン活性比 基準値

アルドステロン（pg/mL）	4.0～82.1
レニン活性（PRA）（ng/mL/hr）	臥位 0.2～2.3
	座位 0.2～3.9
	立位 0.2～4.1
アルドステロン/レニン活性比	100未満

※ 陽性判定は、活性比 ≥ 200 かつ血漿アルドステロン濃度 ≥ 60 pg/mLです。ただし、「ARR境界域」の活性比100～200未満かつ血漿アルドステロン濃度 ≥ 60 pg/mLの場合には、暫定的に陽性とされません。

※ 暫定的に陽性の場合、患者ニーズと臨床所見、特に低カリウム血症や副腎腫瘍の有無、年齢などを考慮して、機能確認検査実施の可否を個別に検討する、とされています。

●参考文献

佐藤 文俊, 他: 医学と薬学 76 (12): 1819～1826, 2019. (検査方法参考文献)

宇津 貴央, 他: 医学と薬学 73 (3): 311～321, 2016. (検査方法参考文献)

日本内分泌学会: 日本内分泌学会雑誌 97 (Suppl): 16～21, 2021. (臨床的意義参考文献)